第2番霊場

霊山寺の所在する富雄の里は、古事記には「登美」、日本 書紀では「鳥見」の地となっています。

敏達天皇の頃より、この地方は小野家の領有でした。右 大臣小野富人(伝 遣隋使小野妹子の息子)は壬申の乱 に関与したため、弘文元年(672)官を辞し、登美山に閑居 しました。天武12年(684)4月5日より21日間熊野本宮に参 籠。この間に薬師如来を感得され、登美山に薬草湯屋を 建て、薬師三尊仏を祀って諸人の病を治されました。そし て富人は鼻高仙人と称され尊崇されたのです。



本尊薬師如来坐像(重文)

神亀5年(728)流星が宮中に落下し、大騒ぎになり孝謙皇女が征中の病(ノイローゼ)にかかられた時、聖 武天皇の夢枕に鼻高仙人が現れ、「湯屋の薬師如来を祈念すれば治る」とのお告げがあり、すぐに行基 菩薩が代参。皇女の病が快癒しました。天平6年(734)聖武天皇は行基菩薩に大堂の建立を勅命。

天平8年インドバラモン僧、菩提僊那が来日され、登美山の地相が霊鷲山(りょうじゅせん)にそっくりという ことから、寺の名称を霊山寺(りょうせんじ)と奏上され、落慶となりました。

平安時代、弘法大師が来寺され「登美山に力の強い龍神様がおられる」と感得され、奥の院に大辯才天

女尊(辯天さん)として祀られました。それまでは法相宗でしたが、弘法大師が真言宗を伝えられ、以後は法相宗と真言宗の2 宗兼学の寺となりました。



本堂(国宝)

鎌倉時代には北条氏の帰依厚く、豊臣秀吉からは寺領百石が与え られます。また徳川幕府にも受け継がれ、御朱印寺として国家安泰と 五穀豊穣そして幕府の武運長久を祈願して参りました。

明治維新の廃仏毀釈により伽藍規模は半減し多くの仏像が焼却さ れましたが、本尊薬師如来のご加護と大辯才天の霊験により復興、 国宝重文建物6棟、重文仏像宝物30余点を所蔵しています。

1200坪の薔薇庭園は先代住職の戦争体験から平和を願って昭和 32年に開園、200種2000株の薔薇が心の安らぎを与えてくれます。

授与があります。



電子版瑠り光では、「菩提僊那と行基菩薩」

(「霊山寺まんが」あとがき 故・青山茂氏(執筆当時帝塚山短期大学教授)を特別掲載しています。 過去発行された瑠り光もご覧いただけます。

行事の詳細、他行事は 霊山寺のホームページ: 行事のご案内でご確認ください。



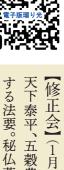
内の極彩色壁画(重文)を1日限定で公 菩提僊那納経会:三重塔壁画公開](11月 一般若心経の写経を奉納、三重塔初層 一山寺の名付け親 インド僧、菩提僊那

本尊の秘仏薬師如来、極彩色四 秋薔薇と秘仏宝物展』(10月、11月 一秘仏宝物の公開がおこなわれます。 天王

供えし、健康と幸福を祈念する法会が 行われます。 本尊薬師如来と八体仏にバラの花 薔薇会式・えと祭り』(5月 災、除難を祈願する節分星祭法会、福豆 する法要。節分の日には一年間の除厄、 修二会·節分星祭法会」(2月 層の正月、国家平安、万民豊楽を祈

除

ます。 天下泰平、五穀豊穣 する法要。秘仏薬師三尊がご開帳され 無病息災を祈願



号

43